

風疹と先天性風疹症候群

風疹は基本的に軽い病気です。発熱、リンパ節の腫脹、全身の淡紅色の発疹などが出現しますが、数日たつと自然に消えてしまいます。まれに合併症を起こすこともありますが、基本的に予後は良好です。そんな風疹が定期の麻疹風疹混合（MR）ワクチンに含まれているのには訳があります。

アガサ・クリスティ原作「クリスタル殺人事件」という映画があります。風疹にかかっているのを隠してあこがれの女優に会いに行ったファンが、妊娠初期であったその女優に風疹を移し、それが後に復讐の動機になるという話です。なぜ風疹が復讐の動機になったのでしょうか。その女優の子どもが重い障がいを持って生まれてきた、つまり「先天性風疹症候群」を発症していたからです。風疹の免疫がない妊婦が妊娠早期に感染すると、胎児に風疹ウイルスが感染して同症候群になることがあります。白内障や難聴、心臓病、発達遅滞などの障がいを伴い、根本的に治すことはできません。平成16年には日本各地で風疹が流行し、同症候群の患者が10人認められました。

ですから、風疹ワクチンの最も重要な目的は、風疹の流行による同症候群の発生を防ぐことにあります。妊娠可能な女性のすべてが風疹の免疫をつけている必要がありますが、地域の流行を防ぐためには男性も風疹ワクチンを接種していなければなりません。すべてのお子さんが、MR ワクチンの定期接種を受けるのを忘れないようにしてください。また、これから妊娠を考えている女性や、過去に風疹ワクチンを受けたか分からない人は、近くの医療機関に相談しましょう。

（このコラムは市立病院 病院総務課 電話（260）0111 が担当しています。）